

# SPUS® Worldview Terminology

## 1. 行知萌芽（こうちほうが）

知が芽吹き、行動と結びつき始める最初の瞬間。  
SPUS® の学びの起点。

## 2. 智創至果（ちそうじか）

智が創造へ展開し、最良の果へと静かに至る流れ。  
知の循環の“結び”。

## 3. 影種（かげめ）

気づきの影が生まれ、知の種が静かに宿る段階。

## 4. 揺味（ゆらじ）

知が揺らぎ、味わい、深まり、形を探る中間領域。

## 5. 紀射（きざし）

知がまとまり、方向性を持って射出される段階。  
実践へ向かう知の放射。

## 6. Tacitability（タシタビリティ）

暗黙知が湧き上がる力、またはその泉としての性質。  
行知萌芽の源泉。

## 7. 6Rs（シックス アールズ）

知を生み出す六つの働き。  
SPUS® の知的生成プロセスの骨格。

## 8. 6Ds（シックス ディーズ）

知を現場で活かす六つの働き。  
実践における知の運用体系。

## 9. Exemplar（エグゼンプラ）

現場で生まれた優れた実例を示し、  
その背景にある知恵・工夫・DEVISALS を可視化する標章。  
SPUS® の実践性を象徴する“知の結晶”。

## 10. DEVISALS（デヴィザルズ）

安全を生み出すために人が積み重ねてきた、  
小さな工夫・配慮・暗黙知の総称。  
SPUS® の哲学の中心語。

## 11. Elsewhy Archives（エルスワイ・アーカイヴス）

「何も起きなかった理由」を静かに記録する知の保管庫。  
SPUS® の世界観を象徴する概念。